



不登校の現状と取組

1. 不登校とは
2. 不登校の現状と要因
3. 不登校の未然防止
4. 不登校への取組

1. 不登校とは（定義）

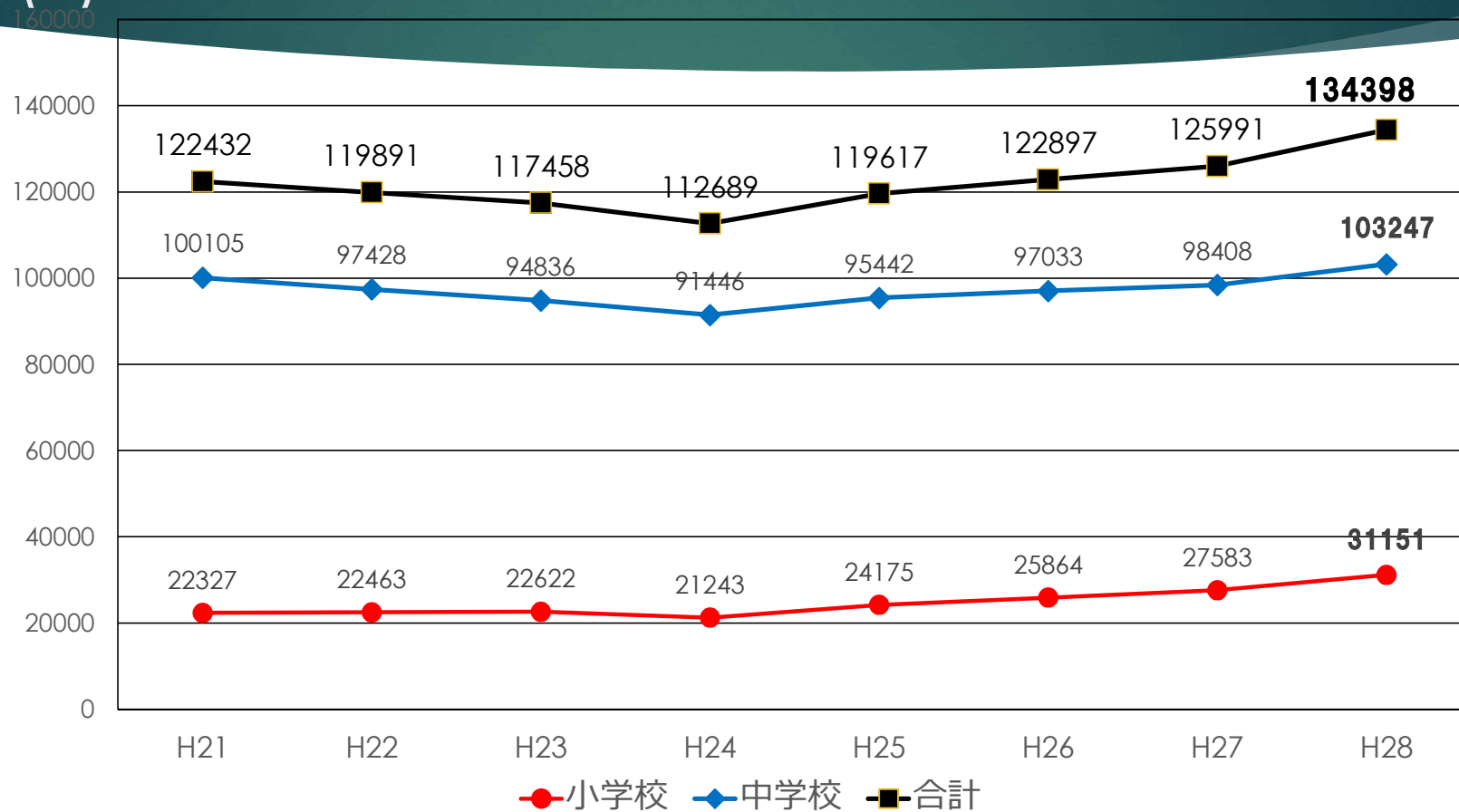
不登校とは、何らかの**心理的、情緒的、身体的**、あるいは**社会的要因・背景**により、児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）をいう。

※ 1年間に**30日以上欠席**した児童生徒の中で、「不登校」の定義に該当する者の数を計上している。

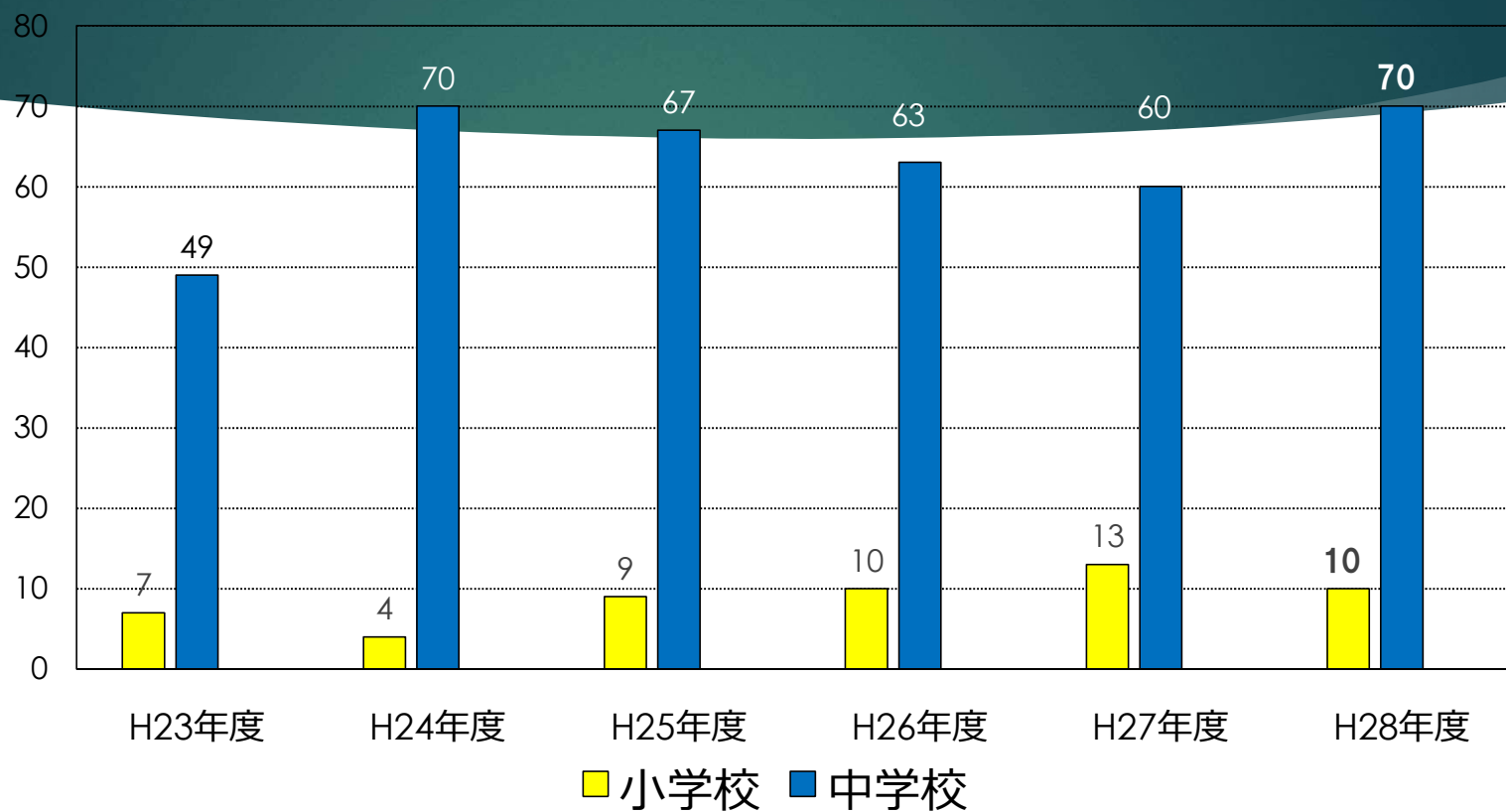


2. 不登校の現状と要因

(1) 不登校の状況（全国）

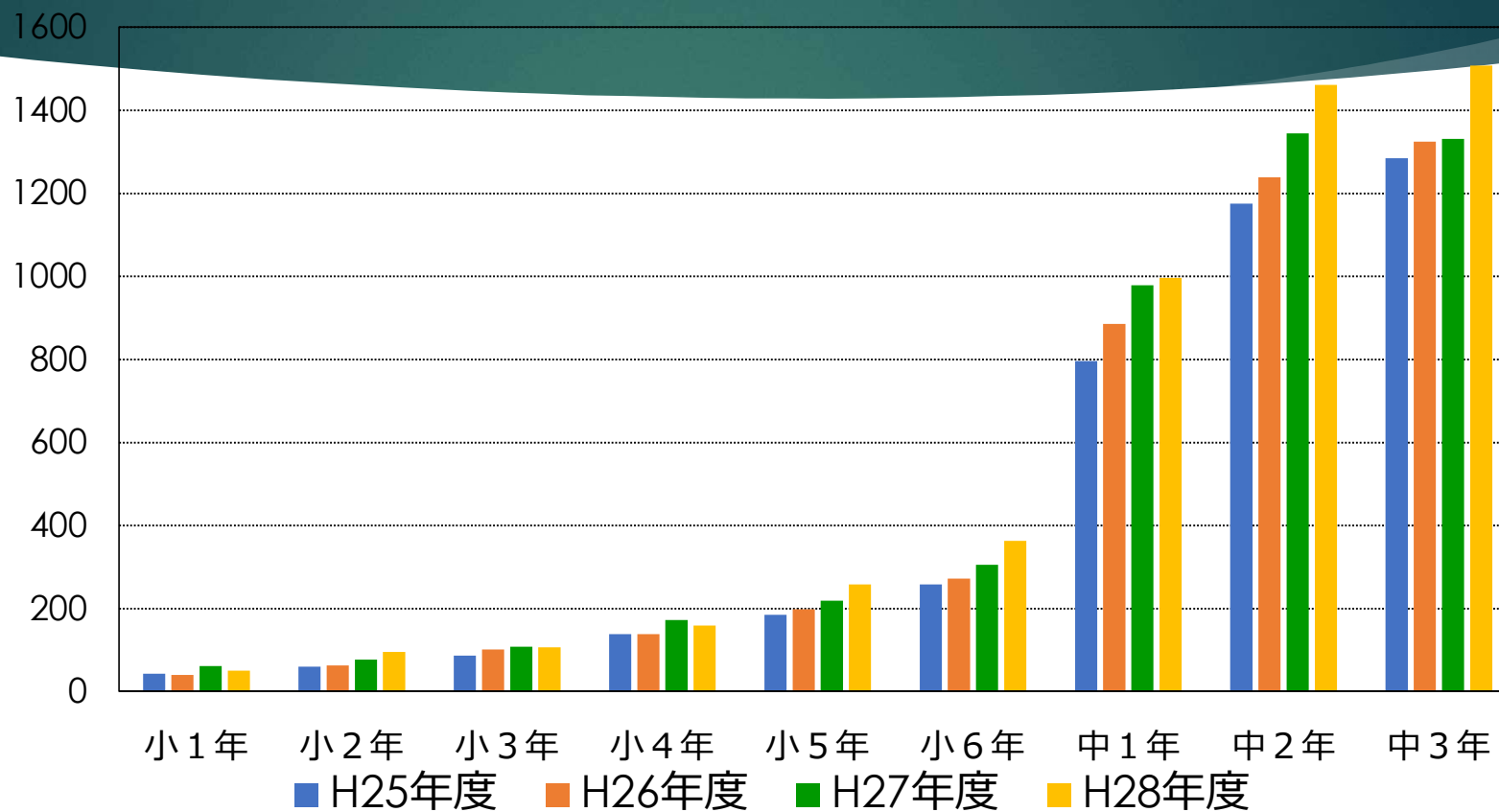


(2) 不登校の状況（恵庭市）



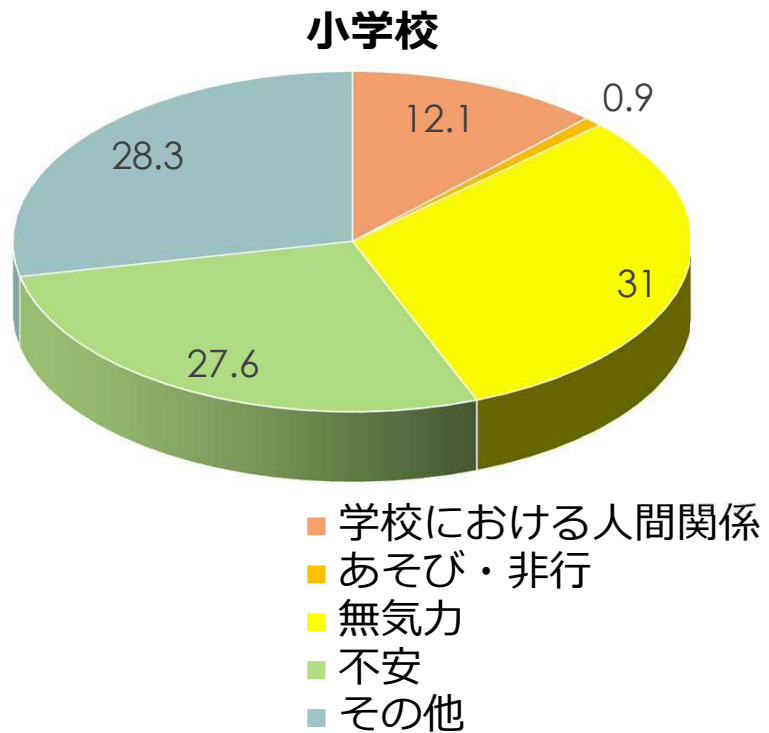
※ H28年度 小学校・・・1000人当たり 2.6人
中学校・・・1000人当たり34.5人

(3) 学年別不登校児童生徒数の推移 (北海道)

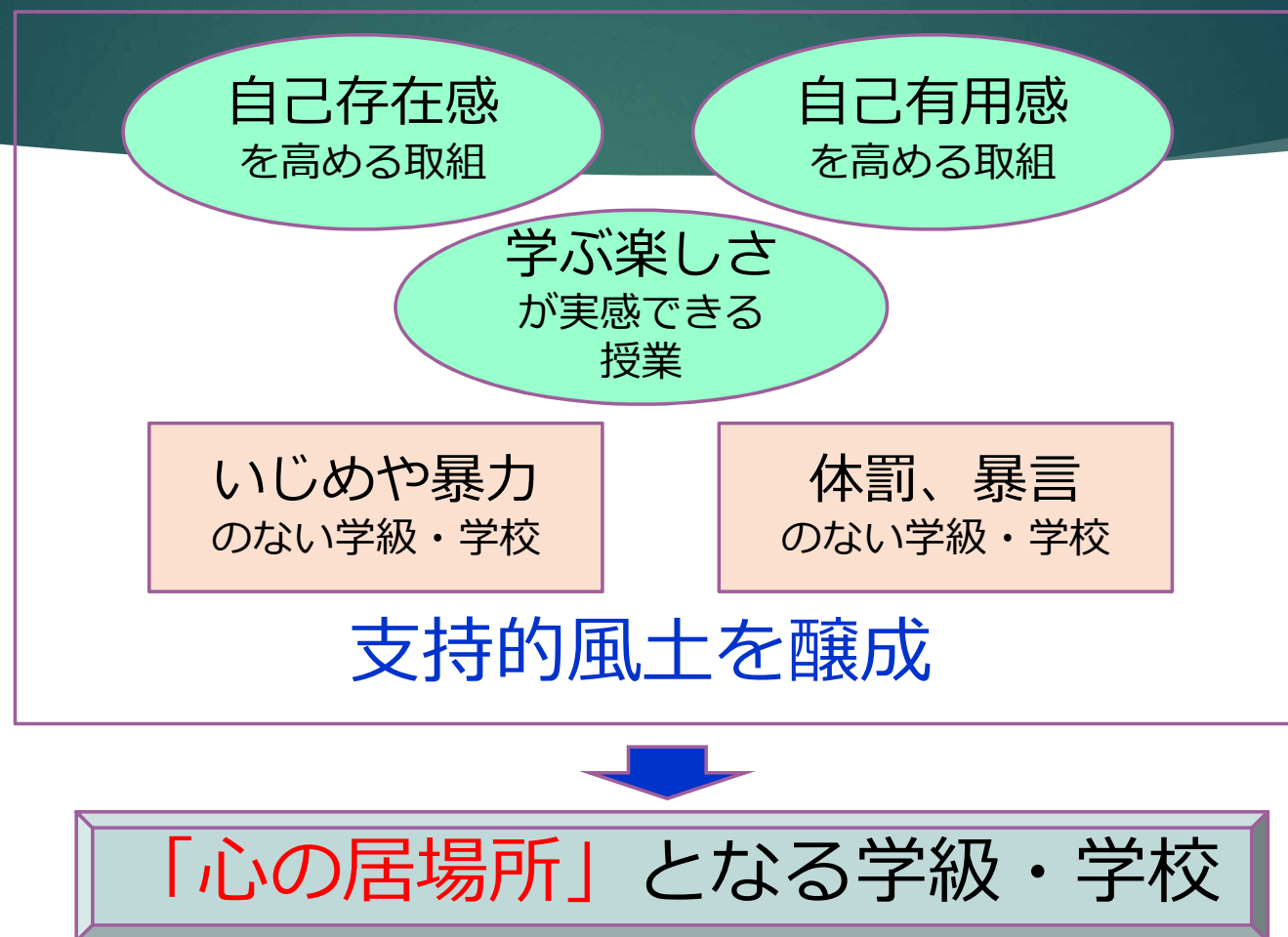


(4) 不登校の要因・背景

北海道(H28)



3. 不登校の未然防止



(1) 集団づくり

- ・学級活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事等の集団活動を通して、望ましい人間関係を構築する力の育成に努めている。
- ・これらの活動の中で一人一人に活躍の場を与え、所属感や自己存在感、自己有用感が獲得できるようにしている。
- ・心を育てる教育活動を充実させ、思いやりの心を育てるとともに、いじめや暴力を許さない学級、学校づくりに取り組んでいる。

(2) 授業づくり

- ・児童生徒が学習内容を確実に習得できるよう、個別指導や繰り返し指導に力を入れるとともに、ITや習熟度別・少人数授業を実施し、「分かる・できる」授業づくりに取り組んでいる。
- ・土曜授業や土曜学習会、放課後学習会等を実施し、個に応じた学習や学習意欲を高める指導に力を入れている。

4. 不登校への取組

欠席状況の把握

学校からの提出書類

＜様式1＞ 長期欠席児童生徒報告

月に5日以上欠席した児童生徒について報告（「不登校」「その他」）
適応指導教室の通級があっても欠席日数として報告

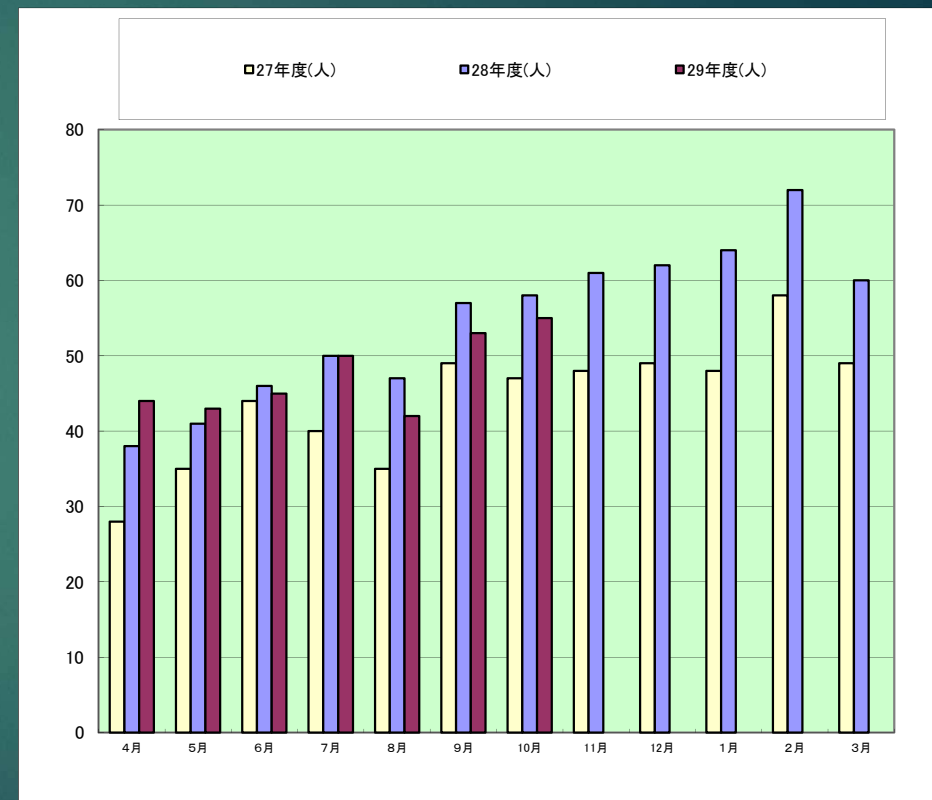
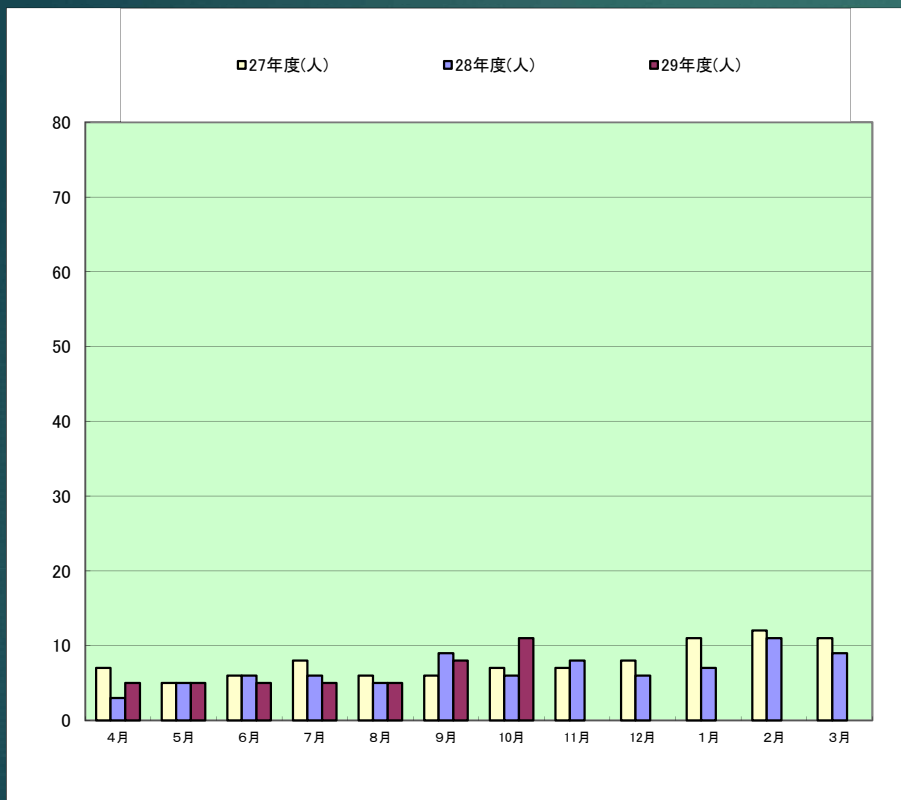
＜様式2＞ 不登校になった最初の月に報告（長期欠席児童生徒指導記録）

毎月の欠席日数、転入記録、欠席理由、生活習慣等の乱れ、怠学・非行
交友関係、家族状況、特記事項

＜様式3＞ 長期欠席児童生徒の指導及び措置記録

電話・家庭訪問、指導、助言、本人・保護者の態度等を記入

不登校児童生徒数のグラフ



欠席状況の集計

若草小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	4	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2
平成28年度	0	1	2	2	1	3	3	3	3	1	2	1
平成29年度	2	2	2	3	3	3	3					

柏陽中学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	7	8	10	10	7	11	10	10	10	9	13	10
平成28年度	9	8	10	13	11	14	12	12	12	12	13	11
平成29年度	9	9	9	10	8	10	12					

本人,保護者,学校への支援



電話相談,来所相談への対応

○保護者から不登校の相談

○学校からの情報により相談

○適応指導教室「ふれあいルーム」の見学相談

相談内容

- ・ 友だちとのトラブル
- ・ 学習意欲の低下
- ・ 理由がはっきりしない
など



家庭訪問の実施

- ・長期不登校児童生徒宅に訪問

（８割以上の欠席が６ヶ月以上続いている児童生徒）

事前に学校に訪問予定を提示し、追加や訪問回避

- ・訪問時間（１７：３０～１９：３０）
- ・再訪問等で本人、保護者、祖父母、兄弟とほぼ会うことができるのですが、会えない家庭もあります。

年 度	6 月	9 月	2 月
平成２８年度	２２／２６	２１／２５	１７／２０
平成２９年度	２３／２７	２７／２９	



適応指導教室での支援

- ・ 学校復帰をめざすが一人ひとりに合わせた対応
- ・ 一人ひとりの学力に合わせた学習指導
- ・ 様々な集団行動や体験学習を通して広く興味・関心を持たせる
- ・ 心身が落ち着く環境の中で、周りの人と関係を築いていく
- ・ 現在 仮通級を含め 30名が登録
3名の指導員による指導

適応指導教室での支援

6、週時程

	月	火	水	木	金	土・日
9:30	児童生徒 登校					休業日
10:00						
	教科学習	教科学習	教科学習			
		個人活動				
12:00	昼食(弁当)・休憩		下校	昼食(弁当)・休憩		
13:00	集団活動			集団活動		
15:00	下校			下校		

★教科指導

一人ひとりの状況に合わせた学習

★集団活動

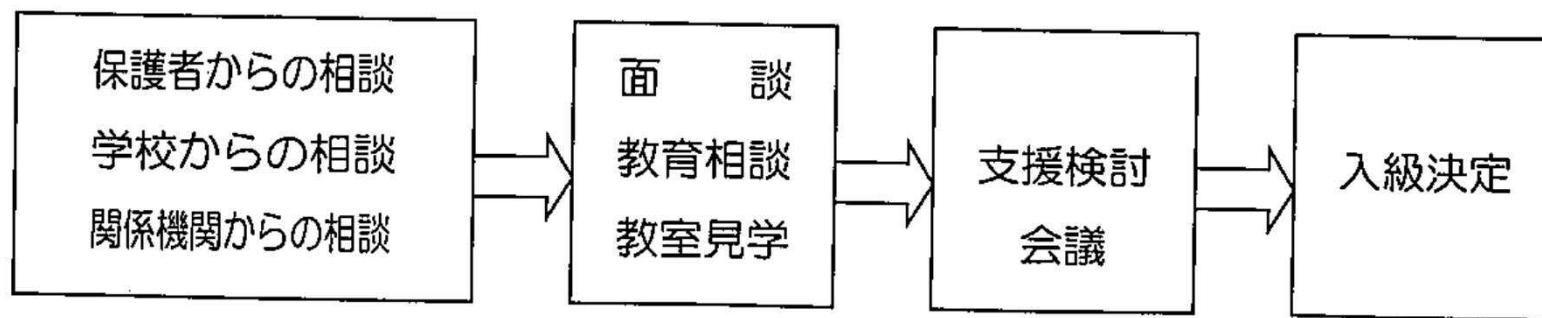
体育、調理実習、百人一首など

★体験学習

農業体験、社会見学、もちつきなど

適応指導教室での支援

8、入級までの流れ



適応指導教室の利用状況

▶ 平成 2 8 年度

- ▶ 小学校--- 2 名、 中学生--- 2 0 名
- ▶ 内 学校復帰--- 2 名 部分復帰--- 6 名

▶ 平成 2 9 年度

- ▶ 小学生--- 1 名 中学生--- 2 9 名
 - ▶ 1 年生-- 5 名、 2 年生-- 5 名、 3 年生— 1 9 名
-
- ▶ 1 日の通級児童生徒数は 1 0 名ほど

訪問型の学習支援

- ・ 家庭訪問で学習支援の提案



- ・ 週 1 時間程度の学習指導



- ・ 「ふれあいルーム」の放課後活用での学習指導



- ・ 「ふれあいルーム」の活動時間での学習指導



- ・ 学校復帰に向けたアシスト

メンタルフレンドの活用

○現在、大学生 19 名が登録

○引きこもり解消

○子どもたちにとってお兄さん、お姉さんのような存在、少し年上の
友だちとして接してもらうため「メンタルフレンド」と呼んでいる

○家族以外との係わり、会話、一緒にゲームすること
などを通してコミュニケーション能力をつける

○訪問は週に 1 回、1 時間くらいの訪問

現在、小学生 1 家庭、中学校 1 家庭に訪問

関係機関との連携

- ・子ども家庭課
- ・福祉ケースワーカー
- ・児童相談所

との連携



発達障害が疑われる不登校 児童生徒への支援

登校しぶりの理由が

- ・ 学習困難なためか
- ・ 友人関係のためか
- ・ 集団行動ができないためか

発達障害をもつ児童生徒は感情を共有することが難しいため
親しい関係をつくることが困難になる。

- ・ 不登校の中で発達障害の割合は3割程度 （2011. 文科省. 不登校調査研究協力者会議）

障害への正しい理解と 丁寧な支援が鍵！！

今日的
課題

■発達障害と不登校に関する調査から

- ・ 中学校に通うLD（学習障害）の生徒59.5%が不登校（2002. 鳥取県. 小枝）
- ・ LD50%、ADHD（注意欠如多動性障害）40%、高機能自閉症18.8%の生徒が不登校（2008. 東京都）

不登校児童、生徒を生まないために

■発達障害を神経質に考えることは無いが、クラスに溶け込みにくいことは確か。

- ・ 早期の発見、丁寧なフォロー（個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と実施）そして親支援
- ・ 訪問指導、通級教室（ことば、まなび）、特別支援学級等、適切な学びの場の提供
- ・ 発達障害の理解を広げ、深める活動（教職員向け研修、保護者向け講演会、「イチャン」等）

(石狩管内唯一 恵庭市単独事業) 「ことば」と「まなび」の訪問指導

《本事業における3つの特徴》 H19年度開始、29年度事業拡大

① 児童生徒の困り感を最優先に...対象者を幅広く

- ・「ことば」「まなび」通級指導教室 終了後の中学生に対応。
- ・通常学級、支援学級在籍にこだわらない。(10名程度)

*・不登校児童生徒も対象

② 出向いて指導、支援を...積極的支援

- ・在籍校の教室を借りて指導。不登校者には、ふれあい教室を活用。

③ 特別支援教育に関する専門的な知識、技能を有する者が...担当者

- ・言語聴覚士による言語指導、SSTによるコミュニケーション能力向上にむけた指導、支援

現在、8名が事業を利用 (小6・中2) (通常4・支援4)

恵明中 通常学級 (1年男子)

恵み野小「ことばの教室」を終了。ことばの発達及び、コミュニケーションに課題をもつ。

本年9月より、恵明中、相談室にて、基礎学力の向上に向けた支援を含め、週1回、放課後の部活の前半を指導にあてている。

若草小 支援学級 (6年女子)

知的な発達 は年齢相応。医療機関で「対人恐怖症」と診断、PTSDの疑いあり。情緒学級在籍無理な登校は避けるよう指示。

昨年より、小集団での学習も困難になり現在は不登校状態。 10月よりふれあい教室にて週1回、SSTを中心とした個別指導を実施中。

* 教室、家庭以外に、安心して過ごすことのできる、新たな居場所として、児童、生徒に受け入れられつつある。

* 表情に明るさが戻り、活動、学習への意欲の高まりがうかがわれてきた。

おわりに

引きこもり54万人

- ・ 内閣府は、自宅にいる15～39歳の「引きこもり」の人が、全国で推計**54万1千人**に上るとの調査結果を公表した。
- ・ 引きこもり期間は「7年以上」が約35%と最も多く、**「長期化・高齢化」**の傾向が顕著になった。

(2016,9,6 北海道新聞)

「引きこもりの状態になったきっかけ」 (上位5つ、複数回答)

- ・ 不登校（小学校・中学校・高校）
- ・ 職場になじめなかった
- ・ 就職活動がうまくいかなかった
- ・ 人間関係がうまくいかなかった
- ・ 病気

「引きこもりの状態になった年齢」

- | | |
|-----------------|-------|
| ・ <u>14歳以下</u> | 12.2% |
| ・ <u>15～19歳</u> | 30.6% |
| ・ 20～24歳 | 34.7% |
| ・ 25～29歳 | 8.2% |
| ・ 30～34歳 | 4.1% |
| ・ 35～39歳 | 10.2% |